



四万十つるの里づくりの会 令和2年度取り組みダイジェスト

令和2年度は、地域の方々の協力、セブンイレブン記念財団や四国クリエイト協会からの助成を得て、以下の活動を行いました。「四万十川自然再生事業」を実施している国土交通省とも連携して取り組みました。



取り組みの様子は
ホームページで公開中！

<http://www.nakamura-cci.or.jp/doc/tsuru/>



令和2年

年間を通じて

江ノ村地区でのツルの餌場・ねぐらづくり

期間 ■ 通年

《実施内容》江ノ村地区の休耕地を借り上げて、地元で農業を営む会員に稲作を行ってもらうことで、収穫後にツル類の餌となる二番穂を残しました。また、ツル類は水を張った水田もねぐらとして利用する例があるため、渡来時期(秋～冬)には、試験的に水田に水を張りました。



↑ 冬季湛水の実施状況 (R2.10)

9月

令和2年度総会

日時 ■ 令和2年9月1日(火) 14:00~15:30

場所 ■ 四万十市防災センター (2F)

参加者 ■ 20名



《実施内容》令和元年度の事業・収支報告の後、令和2年度の活動について審議し、「ツルの飛来状況調査」、「ツルの餌場・ねぐらづくり」、「ツルの自然体験学習会」、「四万十つるの里祭り」の基本4事業を行うことが決定しました。また、ツル類が高頻度で飛来する場所付近の川沿いを銃猟規制区域に追加するため、関係地区長や猟友会と協議を行っていることを紹介しました。このほか、国土交通省中村河川国道事務所から、四万十川流域生態系ネットワークの取り組みの進捗状況や「ツルの里づくり」の新規整備の紹介がありました。

10月

ツル類の飛来状況調査

期間 ■ 令和2年10月下旬~令和3年1月上旬 (高知野鳥の会・国土交通省中村河川国道事務所との連携により実施)

《実施内容》四万十市に飛来したツル類の行動を把握するため、毎日、夜明けにねぐらにいる種類と羽数を確認し、ねぐらから飛び立った後は、水田地帯を巡回して降りている場所(えさ場)と羽数を確認しました。日中にえさ場を飛び立った際には、過去にツル類が利用したことのある場所を探索し、夕暮れ時にはねぐらに戻ってくるのか確認しました。

《調査結果概要》

- 令和2年度は、ナベヅルが5回確認されました。初確認は、例年と同時期の10月28日に飛来した9羽で、11月4日まで滞在しました。その後はしばらく姿を見ることができませんでしたが、11月10日に6羽、13~15日に12羽、22~26日にも12羽が飛来しました。そして、最後に1羽が11月30日に飛来し12月31日まで滞在しました。
- 最後に飛来した1羽は、10月28日の「ツルの自然体験学習会」で子どもたちが江ノ村地区に設置したデコイ(ツルの模型)のもとに降り立ち、約1カ月間デコイの傍で過ごしました。これまでデコイの効果は明らかとはいえませんが、今回効果が証明されました。
- 江ノ村地区に降りたツル以外は、例年と同様に四万十川の砂州をねぐらとし、中筋川流域の水田を餌場として利用しました。餌場では、主に二番穂をくちばしで削り取って食べたり、刈り取り後の落穂を食べていました。



↑ 令和2年度初確認の9羽 (R2.10.28)

↓ 江ノ村地区のデコイの傍で過ごした1羽(赤い矢印。それ以外はデコイ) (R2.11.30)



※この資料の作成にあたっては、夕部眞一氏(四万十つるの里づくりの会)及び国土交通省中村河川国道事務所から写真の提供をいただきました。

ツルの自然体験学習会

日時 ■ 令和2年10月28日(水) 10:00~12:00

場所 ■ 四万十市立東中筋中学校、江ノ村地区

参加者 ■ 51名(東中筋小学校6年生16名、東中筋中学校1年生5名、その他スタッフ等)

共催 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

《実施内容》学習会は毎年夏と秋に開催していますが、コロナ禍の令和2年度は秋のみの開催となりました。子どもたちは、はじめに中学校の教室で四万十市に飛来するツル類の生態や行動などについて学びました。その後、江ノ村地区に移動し、ツルを呼び寄せるためにナベヅルそっくりに作られた「デコイ」(助成金で新調したもの)を設置しました。また、水田の冬季湛水によるねぐら整備の実験や、餌場に生息するツル類の餌生物について学びました。



←ツルの学習

↓デコイの設置



←設置したデコイ(ツルの模型)



11月

第12回 四万十つるの里祭り

日時 ■ 令和2年11月28日(土) 10:00~14:00

場所 ■ 四万十市立東中筋中学校

来場者 ■ 約1,000人

後援 ■ 四万十市、四万十川自然再生協議会

助成支援 ■ (一社)四国クリエイト協会

《実施内容》コロナ禍にありましたが、地域の皆様からの御声援もあり、感染対策を万全にした上で開催しました。ツル類の写真やパネルの展示、四万十の野草がゆなどが味わえる「ツル食堂」、ステージイベントなど、おなじみの催しにより、学び、味わい、楽しみながら皆様に「ツルの里づくり」について理解を深めていただきました。前年好評だった「ツル観察ツアー」も実施しました。この日は、ツルはいませんでしたが、参加者はプロが使うスコープで中筋川を望み、水鳥を見つけては歓声を上げていました。



↑パネル展



↑ストリートダンスショー



↑ツル食堂



↑野鳥観察

令和3年

2月

第2回 四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会(会長が委員として参加)

日時 ■ 令和3年2月16日(火)

場所 ■ 四万十市防災センター

参加者 ■ 23名

事務局 ■ 国土交通省中村河川国道事務所

《実施内容》生態系ネットワークの取り組みは、現在はツル類を「軸」として進められています。この日は、四万十市長や商工関係者などと共に、タンチョウ保護の取り組みを地域活性化につなげた北海道長沼町の事例を学び、四万十市での今後の展開について意見を交わしました。



※四万十川流域生態系ネットワークの取り組みへの参画について

当会の会長及び会員の一部は、個人として四万十川流域生態系ネットワークの「ワーキング」(令和元年6月から始動)にも参加し、より具体的な取り組みについて知恵を出し合い、行動しています。「ワーキング」は、令和2年度は計4回開催され、以下のような検討が行われました。

- ・ ツル飛来地付近の銃猟規制に向けた取り組み
- ・ 四万十川流域生態系ネットワーク全体構想(案)の作成
- ・ 他地域の生態系ネットワークの事例、自然資源を活かした観光や鳥類保護をベースとした農業振興などに詳しい各種専門家との意見交換会の開催

会報「四万十つるだより」で取り組みを発信!

地域の回覧やツルの自然体験学習会等の行事で配布して当会の活動を紹介するため、令和3年1月25日に発行しました。

《Vol.26の内容》

- ・ デコイの効果を確認できました
- ・ 第12回四万十つるの里祭り
- ・ ツルの自然体験学習会

